



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 246
September
2013

トピックス

メンバー国との防災協力推進

JICAフォローアップセミナー「総合防災行政」への参加

ADRC客員研究員レポート

¶ ヒュクハムジャフ・チンバートル (モンゴル)

¶ タンダー・アウン (ミャンマー)

お知らせ

ADRC公式Facebookページの開設

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2013

●メンバー国との防災協力推進

JICAフォローアップセミナー「総合防災行政」への参加

アジア防災センター (ADRC) は、2013年8月14日～15日にかけて、カザフスタン・アルマティ市で開催されたJICAフォローアップセミナー「総合防災行政」に参加しました。本セミナーは、ADRCがJICAからの委託事業として実施しているJICA研修「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政」のフォローアップセミナーとして実施され、日本の防災における経験と知見をカザフスタンの防災関係者に伝達する目的のもと、カザフスタン政府の関心の高い「耐震建築」「コミュニティ防災」「防災センター」といったテーマが選ばれ開催されました。参加者は、カザフスタン政府非常事態省の中央・地方職員及びアルマティ市防災局職員をはじめ、KazNIISA (カザフスタン耐震建築物検査・指導機関) などの研究機関から約40名が参加しました。日本からは、ADRCの他、耐震建築及び建築行政の専門家も参加しました。



ADRCからは、セミナー参加者に対し、日本におけるコミュニティ防災の取り組みについて自主防災組織の活動や防災教育、啓発活動といった視点から紹介しました。また、本年5月にカザフスタン政府とキルギスタン政府の間で非常事態対応及び防災センター (CESDRR) が設置合意されたのを受けて、今後のCESDRRの運営の参考となるよう、アジア防災センターのこれまでの運営及び取り組みについて紹介しました。

参加者からは、カザフスタンと日本の防災行政システムが違うことから、日本の自主防災組織や建築行政について理解しづらいことがあったようですが、建物の耐震化の重要性や「自助」「共助」「公助」という日本の防災の理念は十分に理解して頂きました。ADRCは今後もJICA及びカザフスタン政府事情事態省と協力していくとともに、CESDRRに関しては、同じ地域センターとしてその活動を支援していきたいと考えています。

●ADRC客員研究員レポート

ヒュクハムジャフ・チンバートル (モンゴル)

はじめまして。私はモンゴルから来ましたヒュクハムジャフ・チンバートルと申します。私は2006年にモンゴルの防衛大学を卒業し、現在はオルホン県の非常事態局で情報専門官として、ラジオ通信や早期警報システムの担当をしています。近年のモンゴルにおける災害の増加に伴い、モンゴル政府は今後発生が危惧される自然および人的災害による被害を最小限に抑えるべく、災害管理システムの強化に着手しました。さらに2003年5月20日には防災法が制定されました。

地理的には、モンゴルはアジア大陸の中心に位置し、中国、ロシア、カザフスタンに囲まれています。国土は約156万平方キロで人口は約287万

続き

人です。人口密度は1平方キロメートルあたりおよそ2人です。モンゴルは21の州で構成されていて、首都はウランバートル、政治は議会制民主主義が採用されています。

モンゴルの中心部は平坦なステップ気候です。南部の一部はゴビ砂漠で、北西の一部は山間部です。国のほとんどは、夏は高温で10月から2月にかけての冬は極端に寒くなります。1月の平均気温はマイナス30度を下回ります。モンゴルは1年のうち257日が雲に覆われ、ウランバートルは世界でも最も寒い都市の一つです。産業においては、モンゴルの主要産業は農業と鉱業です。銅、スズ、石炭、タングステン、金、豊富などの鉱物資源に恵まれています。

一方で、自然災害においては大雪、火災、洪水、地震、人的災害など多くの種類の災害が発生しています。特に2010年から2012年の3年間において、私たちは多くの災害を経験しました。例えば、多くの火災、複数の感染症、河川や湖で発生する水難事故など、その種類も多岐にわたっています。これらの災害は、多くの人命が奪われ、また合わせて甚大な経済損失をもたらします。そこで、モンゴル政府は、地震防災の一つとして2012年7月4日から地震早期警報システムのプロジェクトを開始しました。現在、32基のサイレントタワーがウランバートルに建設中で、今後さらに60基の建設が必要となってきます。

最後に、今回客員研究員への参加の機会を頂いた日本政府とアジア防災センターに感謝を申し上げます。



タンダー・アウン（ミャンマー）

はじめまして。私はミャンマーから来ましたタンダー・アウンと申します。私はミャンマーの社会福祉・救済再復興省救済再定住局で働いています。ここでは、調整および研究機関の上級事務員として働いています。また、緊急オペレーションセンターのメンバーとしても活動を行っています。

私の出身国のミャンマーは、人口は約6,000万人です。7つの地域と7つの州で構成されていて、主要産業は農業です。地理的には“（経緯度情報）”に位置しており、面積はおおよそ67.6平方キロメートルで、東南アジアにおいて2番目に大きな国です。南北の長さは約2,200kmで、東西の幅は約925kmです。インド、中国、タイ、ラオス、バングラデシュが隣接していて、ベンガル湾とアンダマン湾に面しています。

自然災害に関しては、ミャンマーはサイクロン、高潮、洪水、地滑り、地震、津波、旱魃、火災、森林火災など、様々な自然災害に直面しています。例えば、沿岸地域では高潮の被害が多く報告されています。ミャンマーは地理的に海洋資源が豊富ですが、一方で高潮やサイクロンなど天候に関する災害に影響を受けやすい国です。そこで、こらら災害発生の増加に伴って、ミャンマー政府は災害管理システムを構築し、2013年7月に議会に置いて災害に関連する法案が制定されました。

近年の災害発生割合をみると、火災が73%、嵐が12%、洪水が11%、地震・津波・地滑りなどのその他災害の発生が4%となっています。2008年に発生したサイクロンナルギスはミャンマーの歴史においても最も大きな被害をもたらしたものでした。災害直後、私たちは緊急



続き

オペレーションセンターを設置し、JICAと共同で開発したエーヤワディー（Ayeyarwady）地域の早期警報システムを始動させ、災害対応にあたりました。

最後に、この客員研究員プログラムへ参加の機会を頂いたミャンマー政府と、アジア防災センターに感謝を申し上げます。この機会は、私の成長にきっと役立つと思います。

●お知らせ**ADRC公式Facebookページの開設**

この度ADRCは、防災への取り組み及びアジア地域における防災関連情報の更なる発信のため、公式Facebookページ（<https://www.facebook.com/ADRC.KOBE>）を開設いたしました。ご興味のある方はぜひともご覧ください。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。